

横浜支部例会(オンライン)報告

2020年6月27日

スカイプにて13名参加

【1】多事総論(一人2分程度自己紹介と関心事)

- ・新型コロナ問題の中で、子どもたちが自分たちには何ができるか、考えられたらと思います。
- ・最近のできごととして沖縄慰霊の日と安保、朝鮮戦争を重ねてニュースなどみている。
- ・戦争体験者のオンライン講演会を聞いている。
- ・実践とそれを通じてのやり取り。生徒たちがコロナの中の学校を話し合う会を始めた。
- ・高1担任。ようやく座席表をつくって、普段の授業が始まる。
- ・オンラインで90分×12コマ講義。コアカリキュラムの研究をしている。 等々

【2】実践報告の検討

Mさん「スペイン風邪」と第一次世界大戦を考える—フィラデルフィアの事例—

①報告

この授業をしたきっかけは、隣の席の化学の先生が大学の先生をよんで授業をしようといったこと。薬科大の先生と一緒に取り上げられるテーマとして考えた。第一次世界大戦のところでは前の年にハーバー博士の実践もしていた。スペイン風邪は知っているが社会にどのような影響を与えているかは知られていない。政治的な判断をどう下すかを考えたいと思った。生徒のことを考えると一市民として政策をどう考えるか養いたいと思った。国としては戦争へと向かっていく中で、インフルエンザが広がっていく。国策と感染症拡大のジレンマをどう考えるか考えさせようとした。2019年11月に実施した。

授業プリントにそって授業展開を紹介する。「20世紀前半において、インフルエンザ対策としてどんな取り組みをしていたと思うか？」を生徒に聞いた。まだ当時の人はウィルスの存在を知らないの、隔離や、対処療法などが中心。ただ、ウィルス自体を撲滅できないという点では、いまとあまり変わらない。

アメリカ参戦の理由を話した後に、国内の情報統制についてふれた。世論誘導や、公債購入の拡大を目指して、戦時広報委員会ができた。公債は戦費の7~8割を占めるので、大変重要だった。また、スパイ法があり、反戦運動をすると逮捕されたりしたことも紹介した。

インフルエンザの広がりとしては第2波の話を中心に話した。軍艦によって国内に感染が広がり、その後基地を通じて広がる。兵士の移動によりインフルエンザが広がり、病床が不足、市中感染となっていく。この兵士の移動がポイントとして話した。

今回の授業ではフィラデルフィアの事例を取り上げた。インフルエンザの広がりにはウィルスの変異を伴う。人から人へと転移するときに変異をしていく。フィラデルフィアには移民スラムがあり、多様な遺伝子を介して変異したのではと推測している。また、フィラデル

フィアの状況として、医療関係者が出征し、医療環境が整っていなかった。公債購入パレードのノルマがあり、インフルエンザが広がっていてもパレードを敢行した。そしてパレード後に急速な感染拡大が広がった。また、埋葬もしっかりできなかつた。遺体を健康な市民たちが埋めざるを得なかつた。

以上を講義として話したうえで、問いを出した。7人の医師たちが当局に中止するように迫っていた。しかし、通じなかつたので、新聞社に記事を載せるように要求をした。あなたが新聞記者だったとしたら、医師たちの訴えを記事にするか。それはパレードを止めることを意味するということで考えてもらった。個人で考え、ペアワーク・全体で意見交換をした。なお、薬科大の先生の話聞いて再度、同じ問いを考えさせた。

出された生徒の意見については『歴史地理教育』6月号論考で意見の推移とともに紹介した。「記事をのせるかどうか」についても、様々な理由のもとに意見を述べていた。また、この軸に加えて「国策に順応するかどうか」という軸を加えて生徒の意見をとらえるようにした。

授業を終えての反省には以下の点がある。薬科大の先生がインフルエンザは重症化した風邪の一形態という立場で生徒は混乱した。また現代の視点か過去の視点かをはっきりさせておくべきだったと思った。当時の人はウィルスを知らないと授業で話したが、生徒は前提にしていなかつた。第一次世界大戦との関連というのもあまり出てこなかつた。年表をうまく活かせなかつた。戦争には反対という立場は持っていないので、好戦的なベースで考えるのに疑問を持ってほしかつた。

最初、記事をのせるのは反戦となるというイメージで授業を作つたが、それ以外の軸で生徒は考えていた。戦争支持でもインフルエンザで死なないように記事をのせるなどある。授業が終わつた後に国策に順応か、反対するかで整理した。是非見せたいと思つた年表などを見させ、3回目のリライトをしてもらった。

新型コロナ感染拡大の現状と比べると、当時のマスクの強制をどう考えるか考えさせたい。当時は戦争で、今回はオリンピックとどちらを優先させるのかという点でも考えさせられる。死因の問題もある。インフルエンザで死んだか、肺炎で死んだか、でどこが死因と考えるなど。埋葬の問題（当時は棺桶の取り合いも）や葬式の問題など、死への対し方も考えさせられる。クラスター問題。クラスターをつぶすというのを現在はしているが、市中感染の問題も注視し続ける必要があるだろう。艦隊を本当に送るかどうかを考えさせたいとも思つた。医療崩壊は当時も起こっていた。

別のクラスで、20年2月29日、休校直前に同じ授業をした。この授業では記事をのせるが80%に跳ね上がった。生徒が暮らす社会情勢が、授業内容への意識に大きな変化を与えることを感じた

②質疑

- ・問いが秀逸。専門家2つの意見があれば記者もジレンマが生じていい。1か月経ったら休戦になるという事実を知っていたら反対になるかと思うと、今から考えるとという視

点を有効に使えるかもしれない。イギリス、フランスの政治指導者の意見というのを入れても面白かった。

⇒具体的なコメントは見えていない。参考文献に挙げた『史上最悪のインフルエンザ』『グレート・インフルエンザ』『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』の3冊を使った。

・埋葬ができないと思うと自分も身近に感じられた。どうしてそこまで掘り下げられたのか。まだ新型コロナの問題が起こっていない昨年度の段階でどのようなモチベーションがあったのか。1時間でどう授業をこなしたのか。

⇒薬科大の人と連携するからだだったが、読めばどんどん面白くなった。第1次大戦の講和会議にウィルソンがインフルエンザになっている。どこまでウィルソンの意図が伝わっているか、人が変わってしまったようだという話もある。1時間でこなしたのは丁寧にみるというより、印象を残して状況を理解することを重視したので早く出来た。ICT環境も役に立った。横浜清風は6割が四年制大学志望、今回授業したのは特進クラス（上位がマーチに受かるかどうか）。

・いろいろな仕掛けがある分、授業全体の最後に生徒の感想があるのか気になった。庶民はインフルエンザを怖がっていたのかを知りたい。

⇒振り返りについては担任が、ポートフォリオで化学中心だが振り返りをしている。庶民についての資料は見えていないが、第1波が来ているとき死者は少なかった。2波について恐怖心を持っていなかったのではないかと予測はしている。

・当時の新聞記者というのはどういう立場なのだろう。ジャーナリズムというのが形成されていたのだろうか。それを前提に生徒の立ち位置も変わるだろう。自分が教えている生徒たちは、パンデミックがあったとしても戦争反対が先にあり、次に人命大事となる生徒が多く、この実践ではそうではない意見が出てくるのが新鮮だった。ある種、現在の状況を反映させているようにも感じた。生徒の空気感というのはどうだろう。どういう生徒層に対し、どういう資料（歴史）を提示するか。

⇒新聞記者の立ち位置としては、職業としてまずあるということ（家族、会社のこと）をイメージして、ジャーナリズムを強調することはなかった。反戦的なことをいうと逮捕される可能性があるから、会社に迷惑がかかるなど考える生徒も多かった。記事をのせると選んだが、本当は載せるべきと思っている生徒もいる。これら葛藤を大事にしたいと思っていた。戦争反対はすべきだと思うが、それでも起こるときは起こってしまう。戦争反対から入ると、戦争の見えづらくなる部分があるのではないかと考えて、前提にはさせていない。兵士を送り出す家族のことなどは、世界史の授業の中に資料として提示している。

・参戦理由で、フランスに貸しているお金が返ってこないからという国益があることは教えているか。一般国民から戦時国債もとっている。

⇒同盟の問題なども話している。ドイツ側につく可能性もあったことも。ドイツに対してプロパガンダを発するようになるさまも紹介した。

・歴史の逆説が浮かび上がってきている。戦争賛成反対の前に、国家による人権保障という

ことが意識はじめられたか、しなかったかの時期。国家が国民を守ることが前提となるのか。パレードをした結果、何を招いたかを考えると逆説がある。戦争並みにアメリカ人が死んでいる。国家の決断の甘さが見えてくる。人権を論じる前に、国民を守らなかったことが、国家にとってもマイナスになっていることが浮かび上がった。

⇒生徒には国として人命を守らないというのはどうなのかと述べて、政府や行政の在り方を問い直す意見が出ていたのが、とても響いた。インフルエンザでたくさん人が死んだのに見返されてないのかというと、戦争が勝ったことが大きいだろう。記憶を塗り替えていて、歴史に刻まれている。インフルエンザの失策が忘れられてしまった。新型コロナでもオリンピックを人命より優先させたり、東京アラートも経済優先でやめてしまったことも注視しなければいけない。国とは何だろうなど生徒に考えさせたい。

・新聞社と別に民衆の立場があればいいなと思った。

⇒行政側の民衆ではないということと、自分の決断で影響力があるということを重視しなかった。普通の市民を主人公に設定すると、身の回りのところの判断にとどまったのではないかと思った。国が動くかもしれないプレイヤーを設定しようとした。

・他のテーマでも応用して問いかけることもできそうだが。

・同じテーマで意見文とは区切って振り返り作業で自分自身の考えや市民の立場で考えさせてもいい。

・歴史の問題を今のこととつなげて考えるのが大切。いまだと新型コロナの状況からスペイン風邪の問題を見直してみたいと思う。戦争に反対・賛成というのでは、賛成が多いというのが衝撃だった。でも、それはリアルな数字かと思った。いまの時代「言ってもしょうがない」と消極的に、現実的になってしまうのが生徒含めた時代状況にある。載せるべきだが載せないというのがリアル。それを言えるクラス的环境や雰囲気というのがある。休校直前だと跳ね上がった数字からは、歴史経験から今後の学びに生かせるのではないかと思った。

⇒リライトさせたことに意味あった。記事をのせる載せないだけだと戦争に便乗するとは思わないので、俯瞰的にリライトさせた。現実を考えるとというのが今の傾向として多い。生徒は発言しなかったり、委員会に出ない。何かに向かっていくとか、自分が本当にしたいことを言えるのではなく、「できないので」はと思ってしまう。社会でもこうなりたいというのを考えさせたいと思っている。

・スペイン風邪では若い人が特に死んでおり、同世代と生徒は考えられるだろう。急性のインフルエンザに対し、慢性の感染症としてのハンセン病の問題では、差別など現在の教育に対して問いかけている問題がある。

③会の後で寄せられた感想

●感想

時宜に叶ったとても興味深い報告をありがとうございました。スペイン風邪の対策、社会

の変化への教訓から人類は何を学んでその後の世界に活かしてきたのか、今、活かそうとしているのか、憤りさえ感じました。歴史から学ぶことが重要なら、今こそ自分も感染症の歴史についての授業をしたいと思いました。マスク強制は人権問題というデモが当時起こったことなど、子どもも身近に感じそうです。

子どもの感想をチャート化し変化まで分析していることは、実践を掘り下げるデータとして有効だと思いました。問いをどうつくるかというのはいつも悩むところで、記事を掲載するか否かという問いは感想にもありましたが秀逸。ずいぶん悩まれたのではないのかな。単純な問いではなく「掲載したいけど、会社や家族に迷惑がかかる」とか「失業する」などの感想が出ていて、今に通じるような葛藤につながる身近に考えることができる絶妙な問いが素敵でした。化学や薬科大の先生とも連携した授業づくりもなかなか出来ないことで、丸山さんのこの題材に関する熱意を感じました。

「レジュメ最後の休校直前の 2 月 29 日に、別クラスでこの授業をやった際には、
・記事を載せる:33/36 人[83.3%] ・記事を載せない:6/36 人[16.7%] ⇒新型コロナの脅威の中であったために、数値が大きく偏ったと思われる。」という部分には、納得しました。今すると全く違う反応が子どもからありそうで大変興味深いです。

1 時間で年表も含めた今回の資料を読み解きつつ内容を理解し自分の意見を言い、意見交流をするというのは私の目の前の生徒たちをイメージすると厳しいだろう。でも、丸山さんのように深く教材研究をして子どもたちに問うような授業を自分もしてみたいと触発されました。どの部分を授業として構成するのか、絞りきるのが大変なくらい魅力的な内容でした。

●報告者 M さん感想

自己紹介をされる度にプレッシャーを強く感じ、あの拙い内容と雑多な資料をみなさまに送りつけたことを後悔しました。しかし、どなたも快く意図を汲んでくださり、とても有り難かったです。また、多くの方々から貴重なご意見をいただけて、とても勉強になりました。そして、自分自身があの授業の中で何をしようとしたのか、改めて見つめ直すとても良い機会にもなりました。

特に、

①当時の「人権」についての考え方はどうだったのか？

→この観点は、生徒がそれに関する意見を書いたものの、私自身には完全に欠如していました。授業を見直してみたいと思いました。

②立場が新聞記者だということに質問が集まったこと

→私は、歴史的事実であるという事に加え、「公的権力ではない」が、「世間にも一定の影響

力がある」という点で、新聞記者の立場から考えるという問いを立てました。指摘されたとおり、ジャーナリズムの役割という視点が完全に欠落していました。私自身としては、生徒の頭の中を想像しながら問いを組み立てた結果であるので、間違ったことをしたとはあまり思っていません。ただし、ジャーナリズムの視点を私自身が持った上で意図的に削ぎ落としたかというところではありません。授業作りの際の歴史教育の視点を、もっと大事にしなければならぬと思いました。

③反戦について

→「私の学校では、戦争に反対する生徒がほとんどだ」という発言を聞いて、思い出したことと、あの時うまく表現できなかったことを書きます。

・授業でリライトをさせる前に、「この中で戦争に反対の人？」と聞いて、手をあげさせたことを思い出しました。その際、ほぼ全員が手を挙げていました。そしてその上で、今回の問いに対する答えは、戦争に加担することにもなるという旨の話をし、リライトをさせました。単純に戦争について問いかければ反対だという生徒も、あの授業だと戦争に協力するような動きを見せたことに驚きました。しかし、このことは、色々と手を出しているうちに(休校や、同時にハーバー博士三部作の授業を展開していました。)、あのレジュメにはのらなくなってしまうました。非常に大事な点なのに、気づけば見落としてしまっていました。

→「戦争について考えさせる」際に、戦争そのものを扱わない方が、かえってリアルに考えることができるのかもしれない。この点は、今後大事にしていきたいと思います。

・私は戦争に関する授業について、感性にも訴えるが、最終的には理性で反戦を選べるような生徒に育ててほしいと思っています。

【3】今後の予定

1. 次回 (予定)

①8月1日16~18時 オンライン例会

②Eさん「教室」から見たハンセン病問題」(学ぶ会 ML6月号)から学ぶこと

③「感染症と歴史教育」を考える第2回です。

2. 今後検討したいこと

①「感染症と歴史教育」

A) 感染症の歴史の授業 (対象)

B) 感染症から見える教育 (方法)

C) 分析視点:トピック

- ・政治：休校判断、緊急事態宣言、専門性（科学）と民主主義、人種差別、米中冷戦
- ・経済：グローバル経済、成長と生存、消費や流通の変化
- ・社会：格差（エッセンシャルワーカー）、差別（名称）、自粛、環境問題
- ・思想文化：コロナアート、恐怖と不穏（ゾンビ、怨霊）、科学

②「歴史総合」をめぐって

・歴史教育者協議会編「世界と日本を結ぶ「歴史総合」の授業」（2020年）手塚優紀子さんの帝国主義関連の文章あり

・『歴史地理教育』7月増刊号

③横浜から世界を考える

④「オンライン授業」をめぐって

⑤遠方からゲスト？